

2020年度第1回理事会議事録

1. 日時：2020年7月11日（土） 13:00～16:30
2. 場所： Japan Sport Olympic Square 3階 ミーティングルーム8
テレビ会議（Zoom）
3. 出席者（* テレビ会議による出席）：
理事：総数26名中 松丸喜一郎会長 田村恒彦副会長 袴田登喜造副会長兼専務理事
岸高清常務理事 溝部政司常務理事 大野明敏常務理事*
鍵山博常務理事* 横山幸子常務理事* 三木容子常務理事
佐橋朋木理事 源洋子理事 成山悟史理事 寺澤良悦理事*
田中僚一郎理事 高橋信吾理事* 田中辰美理事* 柳田勝理事
田口亜希理事* 松島愛理事* 上之園正一理事 横沢聡理事* 尾崎和郎理事*
以上出席22名
監事：総数2名中 石崎和男 香西俊輔 以上出席2名
4. 議事録署名人：松丸会長、田村副会長、袴田副会長、石崎監事、香西監事
5. 袴田専務が13時00分に理事21名出席で成立するとの宣言をした。
高橋信吾理事は、遅れて参加。
6. 議長：代表理事 松丸喜一郎

会長挨拶

豪雨災害でお亡くなりになった方のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々にお見舞いを申し上げます。

都市部を中心にコロナウィルスの感染者が急増しているが、経済的影響が大きすぎるため、社会経済活動を止める見通しはない。With コロナ として新しい方法で進んでいく必要がある。今回の会議もその一環で、一堂に会するスタイルから、ウェブを介して議事を進行する形となった。同じく、競技会も With コロナ として新しい形を模索していかなければならない。今までのように選手や役員が一堂に介する形は当分できない。遠隔地同士をウェブでつないで本選やファイナルを行なっていく方法を試していく。本理事会で紹介するビームピストルの照準軌跡表示システムもその方向性に合致したもの。

<審議事項>

1. 定時社員総会開催について
袴田専務理事より資料1のとおり説明があった。また同氏より、感染拡大予防のため、書面による議決権行使を推奨して開催案内を行う説明があった。特に質疑は無く、議長が諮ったところ全員異議無く8月1日に資料1のとおり開催することを承認した。
2. 総会議案正会員の変更について
袴田専務理事より資料2のとおり説明があった。特に質疑は無く議長が諮ったところ全員異議無く7名の正会員の交代について、資料2のとおり定時総会に諮ることを承認した。
3. 総会議案理事の候補者について
袴田専務理事より資料3のとおり説明があった。特に質疑は無く議長が諮ったところ全員異議

- なく1名の交代による理事の選任について、資料3のとおり定時総会に諮ることを承認した。
4. 2019年度事業報告（案）について
袴田専務理事より資料4のとおり説明があり、特に質疑は無く、議長が諮ったところ全異議なく、資料4のとおり定時総会に諮ることを承認した。
5. 2019年度収支決算書（案）について
袴田専務理事より資料5のとおり説明があった。
一般会計収支計算書については、下記の説明が行われた。
事業活動収入は、予算に対し、決算が1,231万円の収入増であった。
認定料収入が20,822,400円の予算に対し、27,278,119円の決算となり、大きく乖離している。財務への影響が大きいため、今後ブロック理事にヒアリング行う。ブロック理事は、電子標的の導入、改修があるかという情報を事前にとっておいてほしい、との依頼が袴田専務理事よりあった。
事業活動支出は、予算に対し、決算が995万円の支出減であった。
競技運営関係費は、3月の高校選抜大会などが中止となったため、支出減となった。
国際審判等養成費は、希望していた安い会場にて開催できたため、支出減となった。
競技規則印刷は、予算策定時に想定していなかったため、支出が発生した。
用具等作成費は、既存の在庫でまかなえたため、支出減となった。
ホームページ関係費は、サイトリニューアルの計画が未着手となったため、支出減となった。
選手強化事業収支計画書については、下記の説明が行われた。
事業活動収入の競技会参加料収入は、大会が減ったため、収入減となった。
事業活動支出のJOC補助事業 NTC拡充等賃料は、賃料と補助の差額分支出だけで済んだため、支出減となった。
2024年パリオリパラ対策準備基金を設立する。
会計監査時に監事より、赤字予算が黒字になってよかった、ではなく、予算と決算に差異がないようにするよう、指導があった。
石崎監事より、監査報告書のとおり監査の結果問題がないこと、及び当協会の独立会計監査人の交代があったことの報告があった。
特に質疑は無く、議長が諮ったところ全員異議なく、資料5のとおり定時総会に諮ることを承認した。
6. 総会議案会員規程の改訂案について
袴田専務理事より資料6のとおり説明があった。
入会手続きは実態に合わせ、解散したデジタル部会の記述部分は抹消した。
学連規約の抜粋が、後の追加事項と重複する部分があるので、重複箇所を削除した。
各会員種別による日ラ入会手続き団体の原則について、条文を追加した。無銃で学生生徒を指導する、学生生徒でない者を各加盟団体の一般会員と記述した。
特に質疑は無く、議長が諮ったところ全員異議なく、資料6のとおり定時総会に諮ることを承認した。

7. 新規基金設立に伴う財産管理運用規程の改訂案について
藤井彌事務局長より資料7のとおり説明があり、特に質疑は無く、議長が諮ったところ全異議なく、資料7のとおり承認した。
8. 会計処理規程の改訂案について
藤井彌事務局長より資料7のとおり説明があった。
松丸会長より、新しい働き方の中では、中身のある仕事に絞り込んでいく必要があり、形式的なものは削減していく事を進めていきたい、との説明がなされた。
特に質疑は無く、議長が諮ったところ全異議なく、資料7のとおり承認した。
9. 2020年度補正予算（案）について
袴田専務理事より、資料9のとおり説明があった。
本補正予算は、コロナウィルス感染拡大による社会的影響により、会費収入、JOC強化交付金等収入、スポンサー契約料が大きく減少する事になった事を受けて編成したものである。
特に質疑は無く、議長が諮ったところ全員異議無く2020年度補正予算を資料9のとおりとすることを承認した。
10. 2019年度会長表彰について
藤井彌事務局長より、資料10のとおり説明があった。
特に質疑は無く、議長が諮ったところ全員異議無く資料10のとおり承認した。
11. 東京2020オリンピック選手選考基本方針案について
田村副会長兼選手強化委員長より、資料11のとおり説明があった。
内定を受けた50m種目の選手は、条件付きで内定を維持する。基準点を設定し、後日行われる指定記録会にてそれを超える事を確認する。
延期された最終選考会に参加予定だった選手達は、後日行われる指定記録会に参加する。その指定記録会には、同選手達以外の選手達も参加し、記録を競う。最終選考会選手達に勝つ選手が出れば、その選手も追加で最終選考会に進出できる事とする。
要綱は、次回の理事会で示したい。試合再開が見えない今は、作成できない。
50m種目の会場は未定だが、出来ればオリンピック射撃場、出来なければ屋外種目は基本的には他の屋外射撃場で実施したい。どうしても選択肢がなければ、NTCにて行う。
NT基準点を設ける事は良い事だが、達していなくてもオリンピックに出場出来てしまうというのは疑問である。まずはNT基準点を達してもらおう。それを考慮した選手選考をしていただきたい。（大野常務理事）
⇒ 今回は自国開催であり、開催国枠が付与されている。開催国枠による出場を含め、その時一番強い選手を送る。今後派遣をする際は、一定レベル以上の選手のみを派遣するようにする。（松丸会長）
議長が諮ったところ全員異議無く、資料11のとおりとすることを承認した。
理事会終了後の記者発表で告知する。（袴田専務理事）
12. 2021年度JOCエリートアカデミー新規生募集対応について
選手強化委員長の田村副会長より、資料12のとおり説明があった。
コロナウィルスの影響をうけ、育成活動としてNTCが使えるのが10月からとなるため、オ

ーディション日程を変更した。

JOC 報告が 10 月末なので理事会前になる。よって書面決議となる。

成績上位が応募してこないからには話にならない。JOC は成績を重視しており、昨年は当協会の推薦を承認してもらえなかった。上位ランカーに応募してもらえよう、導いてもらいたい。(石崎監事)

⇒ 射撃実績の配点を重くしようという議論をしている。(松丸会長)

議長が諮ったところ全異議なく、資料 1 2 のとおり承認した。

13. 公認審判員の承認について

競技運営委員長の溝部常務理事より、資料 1 3 のとおり説明があった。

2 0 代、3 0 代の若い世代の申請が目立つ。レガシーとしていきたい。

名誉審判について、加盟ブロック団体で推薦していないはず。(大野常務理事)

公認審判員規程 1 3 条により、加盟団体からの推薦と定められている。(岸高常務理事)

名誉審判員の推薦について、資料 1 3 の「加盟ブロック団体」を「加盟団体」とする。

議長が諮ったところ全異議なく、承認した。

14. 記録の公認について

競技運営委員会記録部会長の源理事より、資料 1 4 のとおり説明があった。

特に質疑はなく、議長が諮ったところ全員異議無く資料 1 4 のとおり承認した。

15. 高校生の会費返還について

袴田専務理事より、資料 1 7 のとおり説明があった。

特に質疑はなく、議長が諮ったところ全員異議無く資料 1 7 のとおり承認した。

<報告事項>

1. 事務局報告

・理事の退任、および事務局長の交代について

袴田専務理事より、資料 1 5 のとおり説明があった。

資料について、「岸高清」の「発令内容」を「退任」へ訂正した。

・委員会委員の異動(案)について

袴田専務理事より、資料 1 6 のとおり説明があった。

事務局長の藤井彌は、各委員会の委員から退任する。必要に応じて、委員会には事務局長として参加する。倫理委員会については、規程により事務局長が構成員として決められているので、名前が書かれている。

岸高常務理事は、2 0 2 0 東京オリパラ準備運営本部の副本部長に就任する。

麻殖芳靖理事が交代する予定であるため、同氏と入れ替えで、五十嵐治人氏を国体委員会委員と 2 0 2 0 東京オリパラ準備運営本部員に配置する。

2. 委員会報告：

1) 総務委員会

総務委員長の横山常務理事より、特に報告事項はないとの説明がなされた。

2) 推薦委員会報告

推薦委員長の大野常務理事より、2、3、4、5 月推薦委員会審査結果について、資料 1 8 のと

おり報告がなされた。

年少射撃が昨年に対して減っている。コロナの関係と思われる。それ以外は大きな変化がない。AP 2 6 名まで待ちが減っている。

技能講習免除について勘違いがある。推薦した銃に対しての技能講習免除。年 2 回大会に出場するのが原則。3 年で 6 回は、但書。銃を持っているのであれば、競技に出ましよう、という文書を出していきたい。

3) 国体委員会報告

国体委員長の鍵山常務理事より、下記の報告がなされた。

・国体委員変更について

資料 1 6 に従って、変更を説明した。

・鹿児島国体開催延期について：資料なし

7 月 12 日に鹿児島県知事の選挙がある。知事が決まってから、他県と協議する。

8 月いっぱい決まるのではないかな。

・三重国体リハーサル大会中止について：資料なし

三重県の津市で予定していたが、中止になった。来年に鹿児島国体が行われた場合は、リハーサル大会を三重で行う。鹿児島国体が延期になったら、委員長が見直す。

4) 2020 東京オリパラ準備運営本部報告

2020 東京オリパラ準備運営本部長である袴田専務理事より、口頭にて報告がなされた。

6 月 16 日に NF 協議会がオンラインで行われ、安全、安心かつシンプルな大会にするのがあるべき姿、という方針を組織委員会の森会長より示された。

- 1 選手、観客、関係者、大会スタッフ等への安全、安心な環境の提供を最優先
- 2 延期に伴う費用を最小化し、国民の理解と共感を得る
- 3 大会を簡素、シンプルなものとする

これを受けた競技ごとの詳細は、これから決まっていく。

朝霞視察の説明があった。

5) 選手強化委員会報告

・NTC での新型コロナウイルス感染症への対策について(抗体検査)：資料なし

選手強化委員長である田村副会長より、説明がなされた。

ロキ・コンサルティング株式会社と提携して抗体検査を実施し、確認してから NTC に入ってもらっている。当協会が先駆けて行っている。抗体検査試薬キット 2 0 0 セットを無償提供してもらっている。

抗体検査は、繰り返し行う。感染が疑われる結果が出た場合の医学的な管理は、枝川先生より指導を受けている。

ロキ・コンサルティング株式会社へは、定時総会の時に、感謝状を出す事とした。

6) ジュニア育成委員会報告

・アスリートパスウェイ委託事業について

ジュニア育成委員長の三木常務理事より、資料の 2 0 のとおり説明がなされた。

同事業は、JSC からの委託事業である。2 0 1 9 年度、2 0 2 0 年度の 2 年間の事業である。

AR、AP を持って各加盟団体の会員として活躍していく、それぞれのカテゴリで活躍していくことを目指している。

・タレントハブについて

ジュニア育成委員長の三木常務理事より、資料の21のとおり説明がなされた。

現在は、コーチの活動費のみ当協会から支払っている。

AR、AP を中心に指導を行っているので、成果としてAR、AP の入賞者が多い。

ノービス、カデットの発掘、育成を行っている。

昨年度100万、今年度75万円の予算。

松丸会長より、アスリートパスウェイ委託事業とタレントハブについて説明を行った趣旨について、説明があった。

NT 選手強化事業、ジュニア育成事業のなかで、アスリートパスウェイが JSC 委託事業のため、スキームが異なるという事を理事のみなさんにご理解いただきたい。

タレントハブ事業は、当協会負担であり、我々のジュニア育成事業と合致させるべき。

ジュニア育成事業の発掘、育成事業としては、小中学生に焦点をあてる必要がある。

・アスリート助成金について：資料なし

ジュニア育成委員長の三木常務理事より、口頭にて説明がなされた。

毎年 JSC からアスリート助成金の案内がある。申請ではなく、配分されるもの。

JOC トップアスリート枠は、ジュニアアスリート枠については、該当者なし。

エリートアカデミー生3名の枠は提供される。助成金は、JSC から本人へ直接支払われており、このお金で銃などを買っている。

エリートアカデミーが発足して以来、助成対象になっている。

トップアスリートでは過去に松田選手が該当した。

7) 競技運営委員会報告

・感染防止対策に伴う2020年度競技会計画変更について

競技運営副委員長の佐橋理事より、別添資料①にしたがって説明がなされた。

【8】東日本/西日本大会は、コロナの影響をみながら現在検討中。断念もあり得る。

【21】関東学生秋季大会は、9月から1か月後ろ倒しした。

【31】全日本学生大会は、当初予定より1か月後ろ倒し。

5月より延期されているクラブ対抗は、11月の【42】の名称を変更して選手権になる予定。

全国高等学校スポーツ射撃競技大会は、ファイナルと共に実施したい。

ファイナルの実施方法は、コロナのなかでのテストケースとしたい。

・公認記録登録制度の導入

袴田専務理事より、資料24にしたがって説明がなされた。

会員の競技参加記録は推薦などに関する重要な情報なのでデータベース化して協会で一元管理したい。

G4 まで日ラが管理するメリットは何か。(田村副会長)

⇒ 年2回の出場を確認するうえで、G4 も推薦基準の算定に入る。現在は自己申告と射手手帳の照合。ここを正しく把握して、本来の推薦業務をしていきたい。(袴田専務理事)

⇒ メリットとの費用対効果も検討材料になると思う。作業量が多くなる懸念がある。

装薬銃を持っている人は、更新時に確認をしている。(田村副会長)

銃の所持は、継続して報告するという認識であっているか。取得、放銃の報告がまだ地域差がある。(松丸会長)

・検定基準の見直し

袴田専務理事より、資料24にしたがって説明がなされた。

電子標的の再検定料は導入時と違ってなかなか予算化が難しいのが現状。継続性を重視して見直したい。複数の加盟団体長から提言をいただいている。これからすすめていきたい。

公認料収入が減ると、他を増やさなければならないので、慎重に検討する必要がある。標的公認料収入のなかで再認定料がどの程度の収入になっているのか事務局で調べる。(松丸会長)

8) 普及・生涯スポーツ委員会

普及・生涯スポーツ副委員の成山理事より、資料22のとおり説明がなされた。

・指導者関連の講習会の対応について

夏以降の大会までは、講師派遣を予定していない。

少人数の講習はかまわない。

それに追加して、オンライン会議 (Zoom) を活用した講習をみとめる。

7月下旬から各週末に時間設定をしてHP公開をし、複数回定期的に行いたい。

動画コンテンツも自由に受けていくかたちをすすめたい。

4月当初から活用しているVimeoサイトを利用して、事前動画視聴をした上で講習会に臨んでいただく。Vimeoを他の委員会も活用してほしい。

7月末から実施し、毎月4回実施予定。

要件は、適用できる。

⇒ G2以上の大会に出場する選手はインテグリティ教育受講が要件になっているが本年度からこの要件は適用できるのか？(松丸会長)

⇒ 現在もオンラインで受講できるので今年度から適用できる。(成山理事)

⇒ 今年後のG2競技会参加者の受講状況をしっかり調べフォローアップをしてほしい。(松丸会長)

認定コーチの資格取得講習会について

集合講習は、すべて中止。専門科目のオンライン実施は、計画書が必要であり、現在作成中。

ただし、実技と演習はオンラインではまだ認められておらず、座学のみ。実技については、オンラインでできるところをJSPQと話しながら模索したい。

・普及活動助成金交付決定について

藤井彌事務局長より、資料23の通り説明がなされ、あくまでも体験射撃会など新規の会員獲得の活動であり、大会補助ではない事が説明された。

・ビームピストルの照準軌跡システムの紹介：資料なし

会議室6へ移動し、松丸会長より興東電子が開発したビームピストルの照準軌跡システムの説明がなされた。

3. 会務報告

・ 訃報

藤井彌事務局長より、下記の通り説明がなされた。

本郷肇（はじめ） 名誉会員	2月10日逝去	享年 87 歳
古市実（ふるいちみのる） 名誉会員	3月13日逝去	享年 97 歳
中條公行（ひろゆき）元参事、ロス五輪日本代表	4月19日逝去	享年 74 歳
関敏博（せきとしひろ）岩手県ライフル射撃協会副会長	6月26日逝去	享年 66 歳

16時30分に議長の松丸会長が閉会を宣言した。

2020年7月16日

議事録署名人

公益社団法人日本ライフル射撃協会

議長、代表理事（会長）松 丸 喜 一 郎

松丸喜一郎



代表理事

田 村 恒 彦

田村恒彦



代表理事

袴 田 登 喜 造

袴田登喜造



監事

石 崎 和 男

石崎和男



監事

香 西 俊 輔

香西俊輔

